

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 8 ※記入不要	提案機関名 農業振興課（園芸班）
要望問題 なしの大苗利用技術の確立	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 なしは、この数年のうちに改植が必要な時期を迎えるが、果樹では改植に伴う未収益期間が生じるため、改植に踏み切れない生産者が多い。 未収益期間を短縮するため、大苗を育苗し、それを利用して改植を行う技術、及び改植を行った場合の経営試算モデルの確立をお願いしたい。 本県のなしの栽培面積（平成12年度）は288ha 主な産地 横浜市；71ha、川崎市；56ha、伊勢原市；35ha、小田原市；27ha、厚木市；24ha	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
研究対応区分	①研究所対応 ②委託研究 ③共同研究 ④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（②根府川試験場 ③三浦試験場 ④津久井試験場） ⑤畜産研究所 ⑥水産総合研究所（⑦内水面試験場 ⑧相模湾試験場） ⑨自然環境保全センター

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部 署：	生産技術部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名 （①、②、④の場合）	育苗並びに初期仕立て法が樹冠構造並びに収量に及ぼす影響（生産技術部） ナシ大苗育成による成園化促進（千葉県農業総合研究センター果樹試験成績）
対応の内容等	当所生産技術部では、平成7～11年度に3年間育苗した大苗利用による改植の有効性、及びブルーピング防止加工ポット育苗によるナシ大苗は、細根量が多く、植え傷みが少ないため早期成園化に有効であることを成果情報として発表しています。 また、千葉県農業総合研究センターでは、2～3年間主枝を直立して育成するナシ大苗を、大量育成するための架線式大苗育成法を開発し、その大苗を計画密植法で定植し、早期成園化を図る方法を開発しました。（定植後の収穫量の推移も調査） なお、当所では平成11年度から早期多収・剪定の省力化を実現できる連結一文字仕立て法を研究しています。現地での大苗育苗による早期成園化の取組にあたっては、改植技術及びそれに伴う経営試算モデルについて、他県の情報を収集するとともに、普及センター等と連携して指導協力します。
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備 考	